

伝統文化を職人が伝授茶釜の制作体験

いこまの教育

伝統文化を職人が伝授 茶釜の制作体験



「細かな作業、めっちゃ難しい」「目がちかちかする」生駒北中学校の1年生人が茶釜作りの最終工程「糸通し」を体験。細かく削りあがった茶釜の穂に糸をかけて、オリジナルの1本を作りました。茶釜の国内生産量の9割以上を占める高山町。その地域にある同校では、年以上前から茶釜職人が出前授業を行っています。「日本で見る茶釜はほとんどが高山産です」と話す高山茶釜生産協同組合で理事長を務める、久保恭典さん。500年以上続く伝統文化を子どもたちに伝えています。

KeyPoint

繊細な作業に悪戦苦闘する子どもたち。茶筌制作を通じ、地場産業を学習しました。



読書をもっと身近に小・中学校に司書を配置

いこまの教育

読書をもっと身近に 小・中学校に司書を配置



「謎の地図には、何が書かれているのかな」

生駒南第二小学校の子ども学校司書の東森智子さん。好奇心をそそるため、地図も広げて読み聞かせをしています。

「『耳で読書する』といわれますが、本の内容を人の声で聞くと理解がさらに深まるんです」

子どもの読書意欲を高めるため、本市では全ての小・中学校に学校司書を週日、配置。読み聞かせの他、授業内容に沿った本の展示や本棚の装飾なども担当します。こうした読書指導の結果、小・中学生が読書を目的に図書館を訪れる割合が増加。学習の基礎「読書」の機会が増えていきます。

KeyPoint

表紙が見えるように本を立てて展示。手書きの感想も飾り、本の魅力を視覚に訴えます。



少人数学級できめ細かな授業を

いこまの教育

少人数学級できめ細やかな授業を

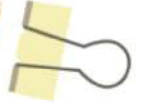


1学級の定数を国の基準より減らす「少人数学級」。市内の小学校では本来の児童数から5人減らし1年生は30人、2年生は35人を上限にクラスを編成しています。例えば、小学1年生が32人在籍する生駒北小学校では通常では1クラスになるところを2つに分け、よりきめ細かな授業を展開中です。

教師が受け持つ子どもの数が減れば、一人ひとりに目がより行き届くようになり、子どもたちが授業で発言・発表する機会が増えます。基礎的な学力向上の他、いじめや不登校などの早期発見も期待できるため、本市では独自の予算で教員を増員。少人数学級を約7年前から進めています。

KeyPoint

子どもの理解度や関心に応じた指導が可能。教師との距離も自然と近くなります。



小学1年生から英語教育をスタート

いこまの教育

小学1年生から英語教育をスタート



「dog!」「snake!」

壱分小学校の3年生35人が絵本や音楽に合わせて、英単語を発音します。これは、外国人指導助手（ALT）による英語に親しむ授業の一コマ。ネイティブの英語を身近に感じられる環境づくりを、学級担任と協力しながら進めています。本来、小学5・6年生で受ける英語の授業を、本市では2年前から全ての小学校で1年生から実施。ゲームや歌などを通し、英語に慣れ親しむ機会を設け、コミュニケーション能力の素地を培います。さらに今年度からは小学3年生以上の学習時間を大幅に増加。国が改訂する学習指導要領に先駆け、英語教育を充実させていきます。

KeyPoint

ALTコーディネーターのダンさん。授業の進め方など、8人いるALTの相談に乗ります。

